

細胞表面/細胞質内抗原のマルチカラー解析

Innovate Automate
SIMPLIFY

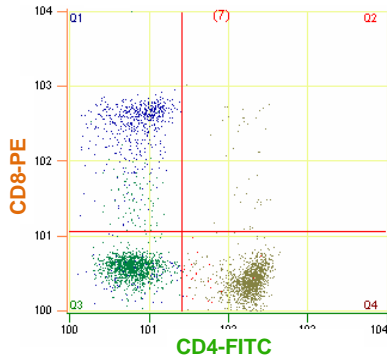
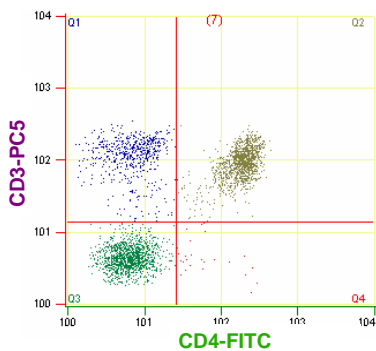
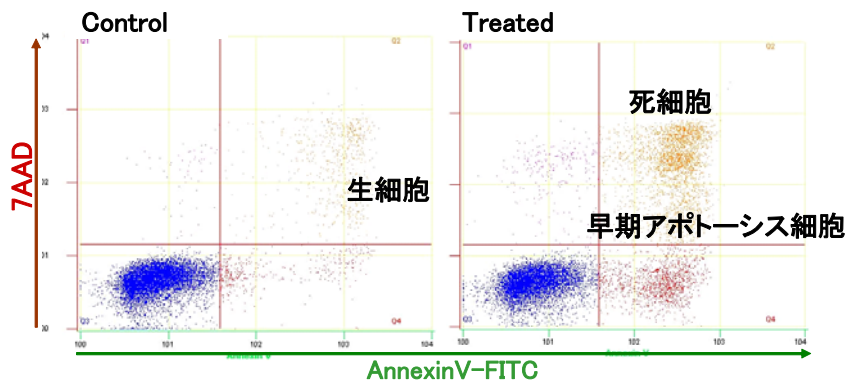
3 カラー細胞表面/細胞質内抗原の解析に対応！！

現在の FCM はマルチカラー化が進んでいますが、Cell Lab Quanta SC は、488nm, 435nm, 405nm, 366nm の光で励起可能な蛍光色素が発する蛍光を、最大3種類測定することができます。同時に取得可能な蛍光数は3種類ですが、多様な励起波長光は利用可能なことで、その応用範囲は飛躍的に広がります。

*蛍光色素と励起波長については裏面参照

2 カラーアポトーシス解析例

サンプル: Jurkat 細胞
横軸: Annexin V-FITC
縦軸: 7-AAD
Annexin V と 7-AAD を組み合わせることで、早期アポトーシス細胞と死細胞を判別することが可能です。



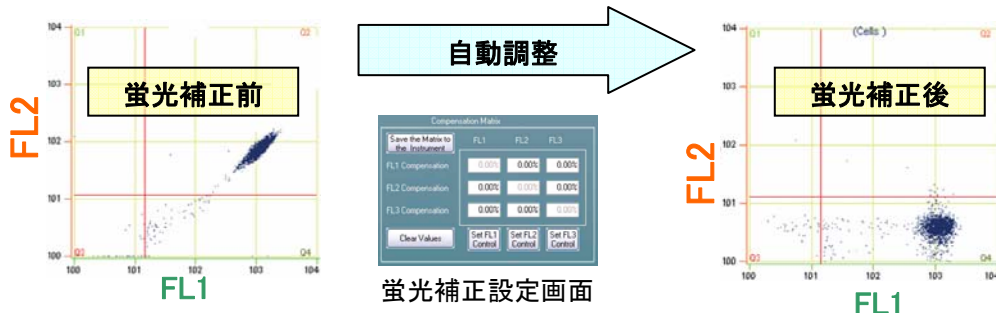
3カラーリンパ球表面抗原の測定例

CD4-FITC、CD8-PE、CD3-PC5 の3カラー染色による測定例。

*全血サンプルの場合、あらかじめ比重遠心分離しておくことをお勧めします。サンプルの状態によっては、溶血法で測定した場合に、リンパ球集団とデブリスの分離が不明瞭な場合があります。

3カラー自動蛍光補正機能搭載！

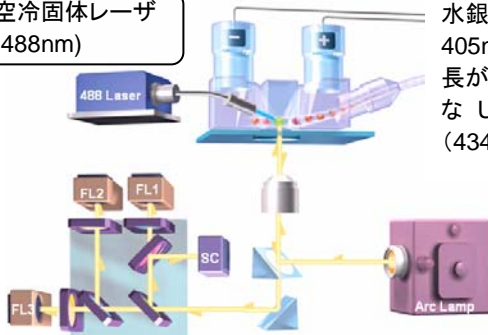
マルチカラー解析を行う際に必ず調整しなければならないのが、各蛍光間での漏れこみ補正(蛍光補正)です。Cell Lab Quanta SC は、この蛍光補正を自動でセッティング可能な機能を搭載しており、簡単な操作で正確な蛍光補正を迅速に行うことができます。



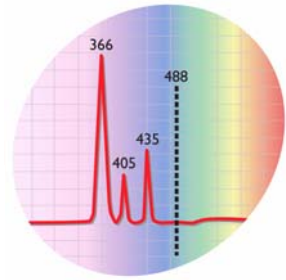
蛍光色素と励起波長

蛍光色素は、特定の波長(色)の光を照射すると、その蛍光色素に特有波長(色)の蛍光を発する物質であるということが出来ます。このとき、蛍光色素に照射する光のことを励起光といい、その光の波長のことを励起波長とよびます。したがって、FCM 本体に搭載されている光源から多くの励起波長を利用することができれば、それだけたくさんの種類の蛍光色素を利用することが可能であり、それだけアプリケーションの応用範囲も広がるわけです。

空冷固体レーザー
(488nm)



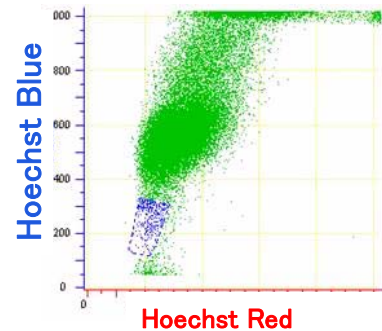
Cell Lab Quanta SC は空冷固体レーザーと水銀アークランプを併用することで、366nm, 405nm, 435nm, 488nm の4つの励起波長が利用可能です。HoechstやDAPIのような UV 励起が必要な蛍光色素や、CFP (434nm 励起)などの測定も可能です。



水銀アークランプ
(366nm, 405nm, 435nm)

UV 励起で SP 細胞の測定にも対応！！

Cell Lab Quanta SC が搭載している水銀アークランプの UV 波長を活用することで、Hoechst33342 染色による SP細胞の測定も可能です。



Cell Lab Quanta SC の最新アプリケーション情報および関連試薬情報は、弊社サイトメトリー専門 Web サイト (<http://www.bc-cytometry.com/>)をご覧ください。

Cell Lab Quanta SC のアプリケーション例

- ・ アポトーシス解析
- ・ 細胞周期解析 (DAPI, Hoechst 利用も可能)
- ・ 細胞表面抗原密度解析
- ・ 細胞内イオン濃度解析
- ・ 核内 DNA 密度解析
- ・ 生死細胞判別
- ・ 蛍光タンパク (GFP, CFP など) 解析

・・・etc.



ベックマン・コールター株式会社

お客様専用 ☎ 0120-566-730 ☎ 03-6745-4704 FAX 03-5530-2460
e-mail bckkas@beckmancoulter.co.jp URL <http://www.beckmancoulter.co.jp>

本 社：〒135-0063 東京都江東区有明2-5-7 TOC有明ウエストタワー 大阪支店：〒560-0083 大阪府豊中市新千里1-1-8 第一火災ビル8F
全国サポートセンター：札幌・仙台・つくば・名古屋・広島・福岡

0609-APT-Q5